

令和8年度 第3回 双葉小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年7月24日（金）13時30分から16時00分
- 2 開催場所 双葉小学校 学習室ほか
- 3 出席委員 平岡 廣二、河邊 忠一、大羽 恵子、木村 理、
井澤 利之、武田 信孝、服部 知里、中村 鮎香
- 4 欠席委員 高橋 功
- 5 学 校 中村 憲司（校長）、磯部 真代（教頭）、齊藤 幸宏（教務主任）
馬淵 康枝（CSディレクター）
- 6 教育委員会 林 亮吾（学校・地域連携課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 馬淵 康枝
- 9 議長の選出

司会の教頭から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、服部委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

グループ協議

テーマ「双葉小学校が目指す学校と地域の未来の姿」

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 講話

国立教育政策研究所名誉所員 小松郁夫氏を招き、「地域とともにある学校づくり ～新学習指導要領の方向性を踏まえて～」をテーマに講話をいただいた。

○ グループ協議

議長の指示により、A～Eのグループに分かれて、「双葉小学校が目指す学校と地域の未来の姿」をテーマに、協議した。

【Aグループ：平岡会長、武田委員、中野、西川、杉山、小林】

双葉小の良いところは、単学級でクラス替えがなく、仲間意識が強いところである。他学年とも仲が良く、ゼッケンが無くてもみんなが名前を覚えている。人間関係でも本音でぶつかることができ、コミュニケーション能力が育ちやすく、それが強みになる。強みをキッズチャレンジビジネスに活かして将来につなげることができる。子供たちは、浜松市内のいろいろな町から通っているため、多様性があり、多様性を上手に活かして、キッズチャレンジビジネスも地域の特色へとつなげていけると考える。

【Bグループ：河邊副会長、服部委員、宝田、山本、谷野、生田】

双葉小の良いところは、単学級で小規模のため、温かい関わりがあり、素直で優しい子供が多いことである。地域とのつながりが強く、保護者・地域の方々が熱心に関わってくださっている。地域は「学びの宝庫」で、地域とつながることで「地域愛」が育つ。CSを積極的に活用し、地域の人々の思いを聞く機会を増やし、地域の良さを活かした授業ができれば良い。

【Cグループ：大羽委員、佐々木、阿部、長谷川、齊藤】

双葉小の良いところは、子供たちが祭りなどを通して、地域とつながりがあるところである。単学級で子供の仲が良く、他学年とも仲が良い。発達支援学級の子供も含め、認め合える環境が整っている。仲が良い反面、もっと新しい世界を見てほしいと考える。

キッズチャレンジビジネスは、「何のために」を考え、子供が主役となってやることで、子供の自立につながる。

【Dグループ：木村委員、遠藤、袴田、山下】

双葉小の良いところは、子供たちが優しく、学校が大好きなことである。他学年との交流もあり、みんな名前を知っている。先生と子供との距離が近い。自立している子供も多い。少人数のため、リーダーの役割を経験できる。「何のために」を問い続け、子供に委ね、今ある活動を継続していくことで、子供が育つ。

課題は、単学級でずっとメンバーが同じのため、役割が固定化する。変化に弱く、中学校でギャップを感じる可能性がある。

【Eグループ：井澤委員、中村委員、伊藤、井口、澤田】

双葉小の良いところは、単学級で少人数のため、顔のわかる密な関係で、風通しが良いところである。子供たちは、人懐っこい。小学校の合併を乗り越えた絆があり、昔ながらの良さと新しいものの良さが融合している。

学びは、「何のために」「なぜ」を考えさせるところから、学ぶ意味を考えるようにしたい。

各グループからの発表を受け、全体で協議をした。また、小松郁夫氏より、総括として、学校の歴史や良さを活かして、様々な角度から学びの場を創出し、皆の幸せや楽しさを大切に、学校・地域づくりを進めていくことについて、お話をいただいた。

12 報告事項

学校支援コーディネーターの木村様から、ボランティア登録状況の報告と、1学期の活動報告があった。また、今後の予定についての話もあった。

13 その他連絡事項等

浜松市教育委員会 林亮吾様より、御挨拶をいただいた。

司会から、次回会議は、令和8年12月8(火)14時00分～16時00分に会議室で開催する旨の報告があった。